



婦人の目

んで、「署名させて下さい」と申し出た。

私たちに指名(?)された若者は、変なオバさんたちの申し出に微笑を絶やさず、親切に、岩国基地のこと、非核三原則のことなど早口にしゃべってくれた。そして最後に

た。彼らの姿に私はふと、荒野に叫ぶ洗者ヨハネの姿を見たような気がした。

洗者ヨハネは、不真実な人間の生活の木は、不真実な民族の生活の木は、切り倒されるのだ、と叫ぶ。私の人生の中にも、確かに木が音を立て

業、愛は、絶えることがないということの、実現であろうか。「人類の未来は、生きる理由、希望をもつ理由を、明日の世代に提供することができる人びとの掌中にある」と「現代世界憲章」は述べている。

平和キャラバン隊

藤屋 紀子

ことしも、山口大学ユネスコ・クラブの平和キャラバン隊は、炎天下の国道二号線を山口から広島まで行進した。私は、彼らがちょうど、徳山の商店街で、署名とカンパのために立っているのに出会った。

六〇年安保の時、ユネスコ・クラブに属していた私は、生まれて初めて授業を放棄しデモに参加した。その当時の

「署名させて下さいと言われたのは初めてナンセンス。驚いたなあ」と言って、白い歯を見せて笑った。

て切り倒されていったものがあつた。かつて、ヒットラーが仲間と共に打ち立てたものも、大きな音をたててくずれ去つた。そして愛と、愛の創(つ

今、核は私たちの生活の中で恐怖であり、「もし」と言うことは絶対に許されない世の中であつて、それでも人生は生きるに値するものであり感謝すべきものであると証(あか)しして歩き続ける若者に出会つたことは、私にとって、大きな喜びであつた。福音をのべ伝えるとは、決して話術だけではなく、証しそのものであると気づいたのであつた。

ことを熱く思い出し、「署名しましょう」と友人をささづけた。一番汚れた感じの人を選

虚榮と快楽と安易さの滴ちあふれたこの商店街に、汗とほごりにまみれた若者のスック姿は、いつかわしくなかつ

た。そして愛と、愛の創(つ)くつたものだけが残された。コルベ神父さまのなごつた

あつた。(主婦)